

総括的な課題の整理 委員会での委員意見 (資料1)

事業		検討すべき課題	第5回
集団回収	○目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域コミュニティの創出・拡充について</li> <li>・集団回収の原点である地域コミュニティの拡充に向けたような取り組みを行うか。</li> <li>・「集団回収を介してのコミュニティの醸成」と言う視点は現状において有効であるのか。</li> <li>・集合住宅における集団回収は必ずしも地域コミュニティの醸成にはつながっていかない。どのように対応すべきか。</li> <li>・団体の「高齢化」への対応方法について。</li> <li>・福祉・防災の観点も含めた行政の支援の在り方について</li> <li>○集団回収事業の拡大について</li> <li>・集団回収事業は拡大すべきか</li> <li>・集団回収率を拡大するための具体的な方策について</li> </ul>	<p>集団回収の目的について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○集団回収という一つの活動を足掛かりに、福祉の活動や防災防犯活動などをコミュニティの活動としてうまくつなげられると良いのだが、市民の力だけでつなげていけるとは思えない。行政が「さあ地域の皆さん、やりましょう！」と先頭に立って旗を振らないと無理なことだろうと思っている。</li> <li>○目的は近隣の人のコミュニティづくり。福祉の会を中心にコミュニティづくりをしているが、これによって全ての人と接点を持つことは難しい。これを集団回収で特に近隣の人がつながり、助け合いが進むことを願う。</li> <li>○行政の古紙回収は月1回にすることを5年後の目標にしたい。最終的には市の回収がなくなった方が良いと思っているが、どう考えても100%無くすというのは現実的ではない気がするので、とりあえず行政収集を月に1回にする。いま月1回の集団回収を見ているが、集団回収の回収日以外は行政収集に出している人もいるため、本来の意義からしたら中途半端と感じている。そこで、行政収集と一緒に月1回の収集にしてくれれば、もう少し集団回収の方に皆が参加してくれると思う。</li> <li>○色々な所にコミセンという言葉が見られるが、現状でもコミセンは行政の方から色々な要望を寄せられており、コミセンは自主運営・自主管理と言われつつも様々なことをやらなくてはならず、新しい関係性の構築は簡単ではない。コミセンがスタートするときに、環境に関連する活動を義務付けるようなことがあれば、たとえば集団回収のような回収事業ができていたのではないかと。</li> <li>○他のコミセンが牛乳パックの拠点回収を開始したのも、年賀ハガキの回収事業で、北コミセンにもすごい勢いで集まるのも、北コミセンでの牛乳パック回収事業が住民に浸透したからだと思っている。住民パワーは、コミュニティを動かすことのできるものだと思う。</li> <li>○集団回収というのは、具体的に皆で体を動かすことで仲間づくりができる、良いコミュニティづくりの一つの道具だと考えればよいのではないかと。</li> <li>○集団回収を介した地域コミュニティ作りの難しさに関して書かれていることが現実だと思う。地域のコミュニティづくりは集団回収に限らず、コミュニティづくりを優先して、結果的に色々動ければと思う。10年、20年先のことを考えると高齢化が目に見えている。具体的な策はあまりないが、市の啓発活動は非常に大事であると思う。すなわち、短期的でなく10年、20年の視点で「孤独死にならないようお互い仲良くならしよう」といったことを、今から粘り強くやるべきではないかと思う。</li> <li>○町内会で集団回収を行っている。町会費が1か月で50円、半年で300円分だけで賄われているのは集団回収のおかげである。ただ、町会の年齢層がかなり高齢なので、違ったところにシフトしていかないと集団回収が続かないと思う。集団回収のお金で町会が賄われているので、高齢化は考えていかないといけない問題だと思う。</li> <li>○集団回収を「コミュニティの活性化につなげるべき」など、どういう理念をもってやっているかということとはとても大事だとは思いますが、一方で税金抑制のために少しでも集団回収を広げるというのであれば、どんな動機であれ集団回収に参加する人が多いことも大事ではないか。数百戸あるマンションのインパクトは非常に大きく、参加者をどれだけ増やせるかということの方がパワフルなのではないかと思う。自分のマンションでは牛乳パックもたくさん集まっているし、ごみの集積所は整然としているが、住民は誰も本来の理念は知らないし、税金を少しでも抑制したいという話についても知らないと思うが、実態としてはそういうこともよしとしていかないと裾野は広がらないのではないかと。</li> <li>○私は分譲マンションに住んでいて、理事会の理事も務めているが補助金の使途として管理費や修繕積立金という認識を持っている人が非常に多く、ごみをいかに抑制するかという意識を持っている住民はほとんどいないと思う。集団回収等に関する意識・動機、目的を考えて参画している人はどれほどいるのかなということを感じる。動機がどうであっても、そこに参画する人を増やすことが重要になってくると感ずるとともに、旗振り役に誰になるかを見つけて動いていくのが非常に難しいと思っている。</li> <li>○マンションというのはなかなかこちらを向いてくれない。これから行政がどうやって啓発して広報していくかが大事なことであり、無関心な市民がちょっとでも振り向いてくれるように必要なことをこの委員会から発信していくことが私たちの役割だと思う。自分の周囲でも行政がやってくれるからそのとおりにやっているという感じで、どうやったらごみを減らせるかとか、回収をどういう風にするかということに対しての意識がないと感じている。</li> <li>○私の住んでいる周辺では古くからの市民は何もして来ず、他所から引っ越してきた人が、今までは町内会があったのに、町内会が無いのでどうしたら良いかとコミセンに問い合わせたり、何かできることはないかと声を上げてくれた。福祉の会がそれに応えて受け皿のような役をしてコミュニティが良くなってきたと思う。とっかかりがなく困っているのは、受けてくれる組織や人がないからだと思うが、声を上げることが大事だと思う。</li> <li>○小学生単位では、地区にある学校単位で集団回収をすると子どもの頃から教育することができて、さらに資源を回収する拠点もできるのでよいのではないかと。</li> </ul>
集団回収	○補助金の在り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○補助金の在り方について</li> <li>・補助金額は適正かどうか</li> <li>・補助金額を増額(減額)する場合、どのような要件が必要か</li> <li>・補助金以外に団体の活動を支援する方策の検討</li> </ul>	<p>補助金について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○補助金について、キャッシュではなく「むちゅー券」等の地域通貨を後押しする仕組みの可能性に関するご意見があったが、他区や他市でも商店会の券を巻き込んでやっていて、区や市全体が活性化につながるということを知っている。市の券だけでなく商店会の券なども使っていくというのは、新しい意見でとても良かったと思う。</li> <li>○グループで3年ぐらい地域通貨を皆さんにお配りしたが、後で聞くと、結構多くの人が使い損ねてしまったと言っていた。高齢者が多いと、そういうこともあると思う。全部のお店で使えればいいのだが。使わないで無駄にしてしまうというのはもったいないと思う。</li> <li>○新しいタイプの団体活動を考えていくと、たとえばPTA、学童など、新しい若い世代につながるようなコミュニティの形成の仕方の可能性があるかと思うが、そこで補助金の使い道が制限されることで、そういったものにそぐわない形がでてしまうように思った。補助金の使途については、その枠を少し広げて考えるということは今後可能なのか。</li> <li>○補助金の使途について、最近マンションの管理費・修繕代金に機械的に回され意義が全然感じられないという話があった。やはり、行政が使い道を指導していくべきではないかと思う。たとえば、共通の防災グッズを買ったり、同好会を作るとすればその援助金を使う、といった指導をしていったら良いのではないかと。</li> <li>○補助の在り方としては、地域コミュニティの醸成を進めていくということを目的とらえて、目的に沿った使い方をして欲しいと思う。</li> <li>○世話人の手当の話に関してだが、集団回収団体が潰れていってしまうのは「お手伝いをするよ」という人はいるが、中心になって世話役を引き受ける人がなかなかいないため。それなりの責任を持ってやらないといけない立場になるので、その人たちのことは一考を要するのではないかと。</li> </ul>
集団回収	○その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>○その他</li> <li>・回収品目の拡大(廃食用油等)</li> <li>・集団の属性により異なる支援方法の検討</li> </ul>	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○集団回収で、現実になかなか行われていないびん、スチール缶、ペットボトルがある。集めにくいもの、すなわちペットボトルやびんなどについて補助金を高めに設定した方が良いのではないかと。</li> </ul>

事業		検討すべき課題	第5回
店頭回収	○支援	<p>○店舗への支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・店頭回収実施店舗への直接的な支援について</li><li>・回収事業者数を増やすための方策について</li><li>・実施店舗での回収量を増やすための方策について</li></ul> <p>○店頭回収への参加者を増やすための方策について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・情報提供について</li><li>・利便性の向上について</li></ul>	<p>店頭回収について</p> <p>○ポイントは行政と方向性を確認していかないと、協力してもマイナスになってしまうこと。リサイクルが難しい種類のものを店頭回収しなさいと言われてしまうと、それはすべて産業廃棄物としてコストアップになってしまうので、それにかかる費用は自社で持ち出しになる。容器包装リサイクル法関連の費用店頭回収は事業者の企業努力でやっているということを市民の皆さんにはご理解いただきたい。行政回収は回数を減らした方が良く、という事は、減量というごみを出さないための方向性としては賛成だが、それを全部私たち事業者にやりなさいと言われると心配になってしまう部分はある。</p> <p>○店頭回収をやっている、持ってくる電子マネーにポイントをつけてくれるというような事例がある。そのようなことを行政と手を組んで、回収ボックスを行政が用意してくれて地域全体でここに持って来れば資源になるということを展開していくと良いと思っている。</p> <p>○始めた以上はお客様との約束なので企業としてやめられない。間違った判断をすると時代の流れとともに難しい部分があるのは事実だと思う。</p> <p>○市民にご協力いただきたいのは、リサイクル物はリサイクルできる環境で回収したいという部分。最近は何もすごく綺麗な状態でお持ちいただいているが、一部のエリアやひどい事例では、ペットボトルの中にたばこの吸い殻が入った状態で回収ボックスに入ってしまう。同じように回収してリサイクルに回すと、その分、分別に人手が必要になるので、無駄な作業が発生してしまう。店頭回収にご協力いただくお客様には、洗って綺麗なリサイクルしやすい状態でお持ちいただくことをお願いしたい。</p>
販売店回収	○自主回収方法	<p>○回収方法について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・より多くの新聞販売店が参加できるようになるための方策</li><li>・事業に参加している新聞販売店の回収率を高めるための方策</li><li>・この事業に対する阻害要因は何か、その要因はどうしたら取り除けるか</li></ul>	<p>販売店回収について</p> <p>○新聞紙の古紙としての取引価格が下がったとしても活動自体はできると思う。30年くらいやってきており、今まで大幅に市況が下落したり上がったりと波はあり、若干の持ち出しがあるとか、戻ってくる量が変わるなどのことはあったが、この先も活動が継続できなくなる、というところまでの状況にはならないと思う。</p> <p>○積極的にやっていないという事実はあるが、子ども会や婦人会など色々なコミュニティがあるので、そういうところに入り込むことは避けようとしている。回収率でいえば、半分くらいは回収できていて、残りはごみに捨ててしまうご家庭もあると思う。支援していただくとなると、金額というよりも捨て方のアナウンスをしていただく方が良くかもしれない。</p> <p>○行政回収を月に1回にすれば良いのではないかと、という話があったが、たとえばそれが集団回収や新聞販売店回収に波及して今までの行政回収と同じような週1回の回収を期待されると、当然コストがかかってくる。集団回収の所で、回収品目で少量しか集まらないものに関しては負担金が増額されても良いのではないかとという意見があったが、古紙にも同じような話が起きる可能性がある。</p> <p>○収集業者は物を運んでなんぼ。スーパーさんも同じだが、物流をやっている方はそこにコストが跳ね返ってくるというのは当然のことだと思う。収集業者もある程度コストをかけていただかなければ物を運べないので、それに見合った回収量があるのが肝心である。それを下げて、たとえば「半分の量でもやるように」とのことであれば、半分の量で見合うだけのコストを収集業者がどこかで捻出しなさいとならない。コストを見合わせて、サービスのレベルをどこまで考えるかというのを突っ込んだところまで、この会議で話していければ良いと思う。</p>
行政収集	○資源ごみ有料化	<p>○資源ごみの有料化について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・有料化する品目について</li></ul>	<p>行政収集について</p> <p>○最終的には行政回収は終わりにして、販売店回収と集団回収で全体を覆っていただくのが良いと思う。ただ、新聞は良いが、段ボールや古布はどうするのかという問題も起きてくる。現在週1回行政回収をやっているが、他の回収においても市民側からそれと同じような要望をされると大変である。行政収集が続く間はそれを月2回、月1回と徐々に減らしていき、集団回収も販売店回収も進めていただきたいと思っている。</p>

事業		検討すべき課題	第6回
集団回収	○目的	<p>○地域コミュニティの創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 拡充について</li> <li>・ 集団回収の原点である地域コミュニティの拡充に向けたような取り組みを行うか。</li> <li>・ 「集団回収を介してのコミュニティの醸成」と言う視点は現状において有効であるのか。</li> <li>・ 集合住宅における集団回収は必ずしも地域コミュニティの醸成にはつながっていかない。どのように対応すべきか。</li> <li>・ 団体の「高齢化」への対応方法について。</li> <li>・ 福祉・防災の観点も含めた行政の支援の在り方について</li> </ul> <p>○集団回収事業の拡大について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団回収事業は拡大すべきか</li> <li>・ 集団回収率を拡大するための具体的な方策について</li> </ul>	<p>集団回収について</p> <p>○「コミュニティがあるから集団回収ができる」のか、「集団回収をしてコミュニティを作る」のかという話があるが、これからコミュニティ作りをするということは難しいと感ずる。集団回収をしている団体も高齢化すると、集団回収を継続していくにはどうしたら良いか知恵を出さなければならない。学校単位の場合PTAが主体となるが色々難しい。行政の力を借りる手もあるとは思いますが、本来は自分たちの力でやるべきものとも思う。そここのところが自分自身の中でも、揺らいでいる。</p> <p>○集団回収をやっていく中で、地域のコミュニティが作られてきたという経緯がある。高齢者がお互い支えあうことや、災害時の助け合い、子供たちの見守りなど、色々な問題が起きてい中で、地域のコミュニティこそ大事であると思う。コミュニティづくりは、基本的には地域がやっていくことではあるが、地域に任せておけばできるということでもなく、「行政はどう考えているのか」ということは絶えず市民の中にあるので、行政もそのつもりで応援して欲しい。「皆さん、ぜひそれでやって欲しい」ということが示されれば、市民が頑張るきっかけになるのではないかとと思う。</p> <p>○「地域フォーラム」という事業が始められているが、テーマとして具体的な取り組み材料がないと、なかなか盛り上がらない。集団回収をその材料として取り上げたらどうかと思う。</p> <p>○拡大生産者責任により最終的には市の回収がなくなった方が良いという意見に賛成。ただし、それを補完する集団回収について、これから新しく始めることは、困難であろうと思う。古紙について、集団回収もやりながら行政収集にも出すという団体もあるようだが、そこは見直しをして欲しい。高齢化によって、紙などの資源物を運ぶことが難しくなっているならば、集団回収は行わないことにして、新聞販売店さんに回収してもらい、ゆくゆくは行政収集はしないところまでいければと思う。</p> <p>○集団回収の意義を何に求めるのか。リサイクルを推進するという大きな目標があるのは確かで、もう一つは、経費を減らすという目的。そこに、コミュニティの醸成という一種福祉的な効果もあるだろうと思うのだが、戸建ての人はごみ減量意識が高く、マンションの人は意識が低い、という線引きは難しいのではないかとと思う。</p> <p>○「コミュニティの醸成」は、集団回収事業の目的としてあった方が良くと思う。ただし「コミュニティの醸成」というのは、資源物の集団回収を実際的にどうしていくか、という話とは違い、もっと次元の高い長期的な視点の話だと思ふ。資源物の集団回収のあり方を検討する場合、補助金額など具体的な内容の検討になるが「コミュニティの醸成」は、非常に長期的な視野に立った、市の大方針としてずっと続けていく問題、といったニュアンスを持っていると思う。</p> <p>○大半の市民は分別方法や排出日を、市の決まりを守ってごみ出ししてさえいれば良い、という考え方だと思ふ。だが、市民も自分のごみ減量について、もっと自分の問題として考えないとならないと思ふ。そのようにごみの排出に対する責任を考えると意味で、集団回収を広めていくことは良いことだと思ふ。</p> <p>○集団回収事業における「コミュニティの醸成」に関して、実際に携わっている立場ではそれができていると感ずる。活動をやっていることで、関わりのある人が自分で提案して動いてくれるようになった。そのような関わりができるので「コミュニティの醸成」は目的に入れた方が良く思う。</p> <p>○190以上ある団体全部の状況はわからない。一度、全部の団体にアンケートを取ってそれを基にしながら議論をしてはいかがか。また、集団回収事業参加者が一堂に介して意見交換をやってみる必要があるのではないか。よその団体がやっていることを参考にして、それならうちでもやれる、といったこともあるかもしれない。</p> <p>○コミュニティの醸成の話の中でコミセンが出てくる。コミセン活動に関わっている立場からすると、始めは町内会に変わるものがコミセンで、コミュニティセンターを中心に地域づくりをしなさい、ということでスタートしたのだが、なかなか地域づくりは難しいと感ずる。コミセンによって取組がマチマチな「牛乳パックの回収」や「お茶わんリサイクル」等はコミセンスタート時からはじめていけば全館に定着できたかもしれないが、自主管理、自主運営の原則がある中で現状では各々のセンターで足並みを揃えることは難しいと思ふ。</p> <p>○「集団回収はコミュニティの活性化を目的とし運営して欲しい」ということを行政にしっかりと示してもらい「管理人がしっかりといて、ただ資源物を集めればそれで用が済む」ということではなく「集団回収事業を通して、団体のなかで補助金を使いながら会員同士がお互いの関係を作り上げていく」努力をしていくようにして欲しいと思ふ。</p>
	○補助金の在り方	<p>○補助金の在り方について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 補助金額は適正かどうか</li> <li>・ 補助金額を増額（減額）する場合、どのような要件が必要か</li> <li>・ 補助金以外に団体の活動を支援する方策の検討</li> </ul>	
	○その他	<p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 回収品目の拡大（廃食用油等）</li> <li>・ 集団の属性により異なる支援方法の検討</li> </ul>	

事業		検討すべき課題	第6回
店頭回収	○支援	○店舗への支援方法 ・店頭回収実施店舗への直接的な支援について ・回収事業者数を増やすための方策について ・実施店舗での回収量を増やすための方策について  ○店頭回収への参加者を増やすための方策について ・情報提供について ・利便性の向上について	店頭回収について ○容器包装の減量に繋がる食材の“量り売り”について、袋や容器を持って行けば買える店舗があると思う。すべての店舗では難しいと思うが、市民生活の動向が少しずつ変えていくと思うので、そういう買い方を市民へPRしていく必要があると思う。  ○透明トレイの店頭回収については、一部のスーパーではすでに取り組みされているが、取り組んでいただいているところはしっかりと市民にPRしていく必要がある。しかし、事業者さんにもあまり無理なお願いはできないので、可能なことから取り組みをしていただく事で“その他プラ”を減らしていくことしかないのではないかなと思う。  ○回収ボックスが表にあれば持って行って入れやすいが、買い物をしなくてペットボトルだけを店の中に入れて捨てる、という事は、例えコンビニが24時間開いているとしても入れにくい。レジ袋を持っていくのと比べると難しい。  ○店頭回収を事業者にも気持ちよくやってもらうためには、それなりの応援をしてお店の方でも気持ちよくやってもらえるような体制作りが必要ではないかなと思う。  ○店頭回収を推進するには、店舗の営業時間外にも入れられる回収ボックスがあればいいと思っていたが、防災上の問題や様々なごみの投入なども考えられるため、回収ボックスは店内に入れて、管理をしっかりすることも企業としては大事な事なのだと感じた。コンビニでは店内にボックスがあると入りにくい、という話があったが、今は地域の利用者との強い結びつきが感じられ、トイレを借りるために入っていく人もいるので、気楽に入って行けるようになるのではないかな。地域のコンビニとしてそのような対応が受け継がれていけば良いと思う。  ○三多摩地区の店頭回収についてアンケートを取って調べたところ、武蔵野市が一番「店頭回収について知っている」という方が少なかった。それは、働きかけがないからだと思う。  ○情報提供という観点は大事だと思う。また、利便性を上げないと持っていけない人が多いと思う。どうやって情報提供や利便性の向上を図れば良いのか、消費者側の意識を上げるための具体的なことをやらないとならないと思う。  ○コンビニでの店頭回収の話があったが、回収ボックスを設置すること自体危険が伴う。ただお金を払えば良いということではなく、ボックスを置くこと自体がすごく危ないことだと思う。朝、吉祥寺駅のまわりはごみだらけでひどい状況だ。
販売店回収	○自主回収方法	○回収方法について ・より多くの新聞販売店が参加できるようになるための方策 ・事業に参加している新聞販売店の回収率を高めるための方策 ・この事業に対する阻害要因は何か、その要因はどうしたら取り除けるか	販売店回収について ○新聞の販売店回収では、すでに21店舗が取り組まれているので、残りの5店舗も取り組んで頂けると市全体が網羅できるのではないかなと思う。  ○新聞販売店の回収で扱うのは原則的に新聞古紙だと思うが、古紙には、それ以外にざつ紙や雑誌など色々ある。資源物として集めるにあたり、それらについても一緒に考えなければならないのではないかな。できるだけ、新聞古紙と同時に雑誌やざつ紙と一緒にして出すと運搬の費用などが減り、効率よく集められると思う。ざつ紙とか雑誌の薄いものは、量も少ないので資源的観点から見ると価値が低いのではないかなと思う。新聞古紙と一緒に集めることで全体としてのコストは下がるのではないかなと思う。  ○新聞も最近発行部数を減らしており回収も大変になっている。ある一定のエリアを1台の車で回る契約をしたとすると、今まではトラック1台分を十分に満たすだけの量が集まったけれども、最近は2割減で空きができコストに響いてくる。そのためトラックを一杯にする努力の一つとして雑誌も回収しましょう、ということがおきる。回収する側としては、敢えてそれを前向きに進めて行くだろう。販売店としては、回収業者は自由にやって良いよということだと思う。そう言ういただけると回収業者は助かる。逆に新聞紙以外の回収をしてはいけない、という事になると回収業者は困ってしまう。
行政収集	○資源ごみ有料化	○資源ごみの有料化について ・有料化する品目について	行政収集について ○拡大生産者責任により最終的には市の回収がなくなった方が良いという意見に賛成。  ○有料化したから“その他プラ”が大きく減るとも思えない。有料化をすると、同じ袋にどれだけものが詰められるか、という事が減量につながると思うが、10当り2円の袋に目いっぱい詰めてもらえるかと言うと、なかなか難しいのではないかなと思う。  ○集団回収は大体月一回だが、市の収集は毎週ある。周りを見ていると、集団回収の収集があるときはそこに出すが、そうでない日は市の収集に出している。まず出来ることとしたら、市の収集頻度を少し減らして、量的なものが集団回収の方に流れていくようにするというのは、可能ではないかなと思う。  ○行政収集が毎週有るので、集団回収をやっている人の中から市の収集にも出してしまおうという人たちが増えてきてしまうということがある。少なくとも2週に一回に行政収集の頻度を下げると言うことは、早急にやって欲しいと思う。  ○資源ごみの収集頻度を減らすと、家の中に置いておくことになるので、家の中のスペースと臭いの問題が出てくる。“その他プラ”はボリュームが大きすぎ、しかも、大抵水分があって夏場は付着物が腐る。集合住宅では週一回でもかなりの山になっているが、これが2週間に一回になると倍になるので、住人から苦情が出ると思う。古紙類はそれ程かさばらないし、集団回収と販売店回収が利用できるとなれば、減らしてもそれ程問題がないと思う。  ○“その他プラ”をなんとか減らしたいというのであれば、やはり有料化して、これだけ出すとこれだけ払わなければいけない、という意識を持ってもらうと、皆がボリュームを減らしたり、店頭回収の利用をするように工夫をすると思う。そのようなインセンティブに訴えないと減量は無理ではないかな。  ○ダンボールや古着などは新聞販売店回収があっても最終的に残ってしまうものなので、集団回収、販売店回収は何を担っていくのかを整理しながら、最終的に行政の役割がどこにあるのか決めていかないとならないと思う。  ○武蔵野市の場合、とくに、吉祥寺の場合は半分以上、6割が単身世帯だが、大体ごみ出しについては単身の方が、意識が低いものと思われる。ごみをどうにかしたいということであれば、集団回収とかコミュニティとかシステムとして出来上がっていて、現状あまり問題も生じていないものをいじるよりも、そういった単身世帯向けに何かをアピールをしていくようなこと、単身世帯をどうするのかといったことの方が大事なのではないかなと思う。